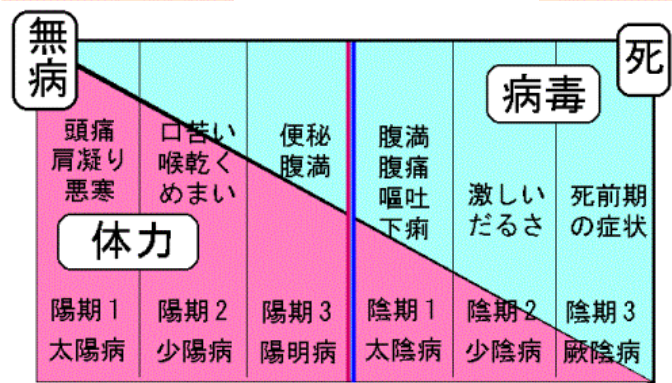


(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

かぜ等における病期のステージ分類と漢方薬について

漢方では、かぜをはじめすべての病気は時間の経過ともに変化していくものと考えています。そしてその変化していくなかで、その患者さんが現在どういう病態なのかを、病期・病位・病勢<虚実など>で診断して、その刻々と変わる病態に対して対応できる処方を考えます。太陽病・少陽病・陽明病・太陰病・少陰病・厥陰病(けっちん)の6つの「病期」の三陰三陽(六病位、りくびょうい)に分けて診断します。

漢方医学(傷寒論)の疾病観



1. 太陽病期

かぜの引きはじめで、寒け・発熱・頭痛・うなじの凝り・関節痛などのみられる急性期です。寒けと熱感を同時に感じるような時期で、発病初期です。

2. 少陽病期

いわゆる長引くかぜとか、こじれたかぜと言われる時期です。微熱が続いたり、熱が出たり引いたり、咳や痰などの気管支炎症状が出現したり、食欲が落ちムカムカしたり、口が粘ったり苦かったりと上部消化器症状も出現する時期です。

3. 陽明病期

身体の中に熱がこもって、熱感を感じ高熱が持続し、発汗を伴う口渇が顕著な時期です。脱水がひどくなり便秘することもあります。

以上の3つの陽証病期は生体の抵抗力・回復力が、ウイルスや細菌などと盛んに戦っている状態で、熱の出る状態の時期です。病気の戦闘が起こっている場所を「病位」といいます。かぜの引きはじめは、「表(ひょう)」と呼ばれる皮膚・関節・筋肉・神経などの身体表層部で戦闘が起こっています[太陽病期]。それが進行するにつれてやや身体内部に入り上気道や気管支、食道や胃などの場所をさす“半表半裏(はんぴょうはんり)”に進んでいきます[少陽病期]。そして最後は“裏(り)”である身体深部の肺・気管支・下部消化管へと進んで行きます[陽明病期]。

しかし病気が進行するにつれて、病気との戦いの場所が、身体の表面から、だんだんと身体内部や深部に及んで行きます。これは病気の勢いが多く強くなる一方で、抵抗力・回復力が次第に低下してくるからです。勝負が劣勢となり受け身状態から、やがて“負け戦”になっていきます。この時期

の患者さんは、元気がなくなり、顔色も悪くなり、冷えを感じるようになります。この段階は陰証病期（陰証）と総称します。病位はすべて“裏(り)”であり、だんだんと“冷え”が支配してくるので“裏寒(りかん)”と呼ばれます。内臓の機能が低下し、新陳代謝が落ち込み、抵抗力・回復力も低下します。陰証では病気が進むにつれて、裏寒が悪化し重症度が深くなります。

4. 太陰病期

熱感はなくなり、だんだんと身体が冷え始めます。肺や胃が冷えはじめて、痰が多くなったり、腹の張り・腹痛・下痢気味になったりします。

5. 少陰病期

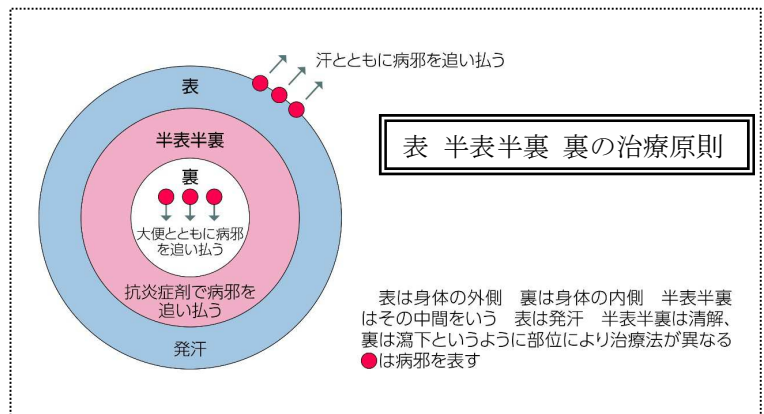
気力・体力が衰えて、全体として元気がなくなり、顔色も悪くすぐ横になりたがる時期です。冷えを感じて寒けはしますが、原則として発熱はありません。

6. 厥陰病期(けっちんびょうき)

命のロウソクが燃え尽きる直前で、しだいに悪くなって消えてしまう場合と、逆に一層熱く明るくなるような時期を起したのちに死を迎える場合とがあります。

病気の進行による治療原則

その進行は原則として、太陽病から始まり、次に少陽病に移り、その後陽明病に進行します。さらに進むと太陰病を経て、やがて少陰病へ、そして厥陰病に至り、死を迎えます。そして、その病期によって用いられる生薬や処方がある程度決まっています。



漢方治療原則の大筋は、太陽病期では発汗(発表)して治療し、少陽病期では抵抗力・回復力と病邪・ウイルスとを和解させるという方法を取り、陽明病では熱をとったり排便することで治療を目指します。陰病では温補法といい、身体を温めながら体力や抵抗力を補い、質的かつ病的に不足している回復力を増強させて、新陳代謝を高め自然治癒力を高めます。

しかし実際の病期の進行は様々なバリエーションがあります。太陽病からすぐに陽明病に移行したり、少陽病から直接に陰証へ進行することもあります。太陰病や少陰病から直ちに発症することもあります。病期が順番通りに進行しないこともあるので、注意が必要です。

病期・病位における漢方処方・治療の目安

陰陽	陽症病期			陰症病期		
	表証	半表半裏証	裏証			
六病位	太陽病期	少陽病期	陽明病期	太陰病期	小陰病期	厥陰病期
漢方処方	麻黄湯、葛根湯 桂枝湯	小柴胡湯 柴胡桂枝湯	白虎加人参湯 桃核承気湯	麻黄附子細辛湯、人参湯 小建中湯、真武湯		
治療	発汗	体と病邪を和解	熱をとる 排便	温める、体力を補う 新陳代謝を高める		